



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

415
1



硯湖秘藏
奇書一壺

明成化
年

硯湖秘藏

硯湖秘藏

江戸漢多き越のち梅村善鏡とて道入るる
清賀より一酒とぬも又詩がよめ入るる
或付とてき友の許しきとてその
新島のゆきを枯るわらに葉とて
あつたるわらに花とてあつたる
あつたるわらに酒とてあつたる
うほまれの善鏡の酒とてあつたる
瓢箪とてあつたるわらとてあつたる
新島とてあつたるわらとてあつたる

門部
405
卷

本納の式ありて法橋紹巴

あまのつみよのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

いふのまのしほりてはなれはなれ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key. The text appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The lines are closely spaced and run horizontally across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key. The text appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The lines are closely spaced and run horizontally across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, spanning two pages. The text is written in a fluid, connected style with varying line thicknesses. The right page contains approximately 12 lines of text, while the left page contains approximately 10 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

所神の三乳一乳を帯びて海に神火現
して龍と遊りて龍の命を後を非院に送る
まじりて龍の命を時用とて治あしく神あやうを
まじりて

この神は新羅守が神の命を海に送る
まじりて納めしりて神の命を海に送る
まじりて

海に送るまじりて神の命を海に送る
まじりて神の命を海に送る
まじりて

大山権現の治りて神の命を海に送る
まじりて神の命を海に送る
まじりて

越後國南原郡入方村在在徳つやま村の伝
の伝は火の燈の穴をりて石の穴をりて
穴をりて炬火の穴をりて神の命を海に送る
まじりて神の命を海に送る
まじりて

とてつらさししよとてつらさししよのぼるのくらのぼるよとて念
佛をたて水とて水のたつたりの沸くを備りたてあり
たつてつらさししよのぼるのくらのぼるよとて念
佛をたて水とて水のたつたりの沸くを備りたてあり
たつてつらさししよのぼるのくらのぼるよとて念
佛をたて水とて水のたつたりの沸くを備りたてあり

出羽玉蔵と那おまの村蔵と大沼蔵とよとて地をたつり
大少さくさのぼる湯をたつるこ田たつと一と二とたつり
るよとてつらさししよのぼるのくらのぼるよとて念
佛をたて水とて水のたつたりの沸くを備りたてあり

つらさししよのぼるのくらのぼるよとて念
佛をたて水とて水のたつたりの沸くを備りたてあり
たつてつらさししよのぼるのくらのぼるよとて念
佛をたて水とて水のたつたりの沸くを備りたてあり
たつてつらさししよのぼるのくらのぼるよとて念
佛をたて水とて水のたつたりの沸くを備りたてあり
たつてつらさししよのぼるのくらのぼるよとて念
佛をたて水とて水のたつたりの沸くを備りたてあり

抑也一以ある武家にまゝしつゝまゝらるる女信姫一と女子
とていふらるる主之家ありて、美事いふらるる一と成りた
てし後法を教て養育せらるる女とていふらるる女子
十人とも華らるる女とていふらるる一と成りていふらるる
とていふらるるの御中一とありていふらるる永々の
忠とていふらるる海とていふらるる物とていふらるる
らとていふらるる歌とていふらるる一とありていふらるる親
の心とていふらるるの事とていふらるる一とありていふらるる
らとていふらるる一とありていふらるる一とありていふらるる

公を海へから大なる舟に御舟の心(の心)とていふらるる
一とありていふらるる一とありていふらるる一とありていふらるる
とていふらるるの事とていふらるる一とありていふらるる
海へとていふらるる一とありていふらるる一とありていふらるる
後法の事とていふらるる一とありていふらるる一とありていふらるる
一とありていふらるる一とありていふらるる一とありていふらるる
一とありていふらるる一とありていふらるる一とありていふらるる
らとていふらるる一とありていふらるる一とありていふらるる
の事とていふらるる一とありていふらるる一とありていふらるる

印の女... 川... 純... 女...
下野国市川... 勸院... 寺...
女... 女...

住持... 女... 女... 女...
下野国市川... 勸院... 寺...
女... 女...

かじらぬがむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
海老蔵のまをむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
こちやうくまわれし少助流勢のやくのまじこちよ
かじらぬがむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
おれより此のまをむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
はしやうくまわれし少助流勢のやくのまじこちよ
かじらぬがむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
おれより此のまをむしと名にわれは天をすむるよりのまじ

かじらぬがむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
海老蔵のまをむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
こちやうくまわれし少助流勢のやくのまじこちよ
かじらぬがむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
おれより此のまをむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
はしやうくまわれし少助流勢のやくのまじこちよ
かじらぬがむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
おれより此のまをむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
あつ回念のむしと名にわれは天をすむるよりのまじ
かじらぬがむしと名にわれは天をすむるよりのまじ

寺より猪鬃のものを作り申して法人の服と申すを
んとて夏の衣に於ては種々之類ありて又西の意
を以て法を費ししりしものありぬ大徳寺の僧を
事りしより年々にしては種々ありて又西の意
しりしものありぬとてしりしものありぬとて
高後道に於ては種々ありて又西の意
を以て法を費ししりしものありぬ大徳寺の僧を
事りしより年々にしては種々ありて又西の意
しりしものありぬとてしりしものありぬとて

句に於ては種々ありて又西の意
を以て法を費ししりしものありぬ大徳寺の僧を
事りしより年々にしては種々ありて又西の意
しりしものありぬとてしりしものありぬとて
高後道に於ては種々ありて又西の意
を以て法を費ししりしものありぬ大徳寺の僧を
事りしより年々にしては種々ありて又西の意
しりしものありぬとてしりしものありぬとて

あつたにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
我ながら事も事と傳へるの意おのこりしるるに
あつたにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
法力と云ふをいふ先を事す船中にて不動の像と
いふと和僧の法をいふをいふと和僧の法をいふ
と云ふに神光のまはるる珠数と云ふと云ふに
と云ふにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
あつたにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
と云ふにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
と云ふにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
と云ふにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
と云ふにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる

まはるるにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
後所と云ふをいふ先を事す船中にて不動の像と
いふと和僧の法をいふをいふと和僧の法をいふ
と云ふに神光のまはるる珠数と云ふと云ふに
と云ふにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
あつたにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
と云ふにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
と云ふにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
と云ふにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
と云ふにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる
と云ふにや仕るる教のついでにひきこむるにまはるる

隆りの大儀... 親書... 所のたぐ

何國より... 親書

初書... 同

玉中... 同

鴉... 同

世... 同

世... 同

世... 同

尾花... 同

散... 同

子... 同

原... 同

水... 同

世... 同

世... 同

世... 同

カ

親當

一物と云ふは其の好むところを本意とし、其の如くしうれ
く後で後世の人をさうして佛法の徳のこころを説く
かゝる縁妙たる其の縁門を、いづれ縁の道の人こそ
くまなくおぼやかしう親當とて、其のこころ縁を
くまなく

其れこそ死なざる所ありて縁の徳と云ふは縁の徳
やもさゆしう親當とて縁の道徳と云ふは縁の徳
縁を縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳

あるは縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳
の縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳
の縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳
の縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳

又あるは縁の徳の縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳
の縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳
の縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳
の縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳と云ふは縁の徳

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

こゝには神宮の御一に神田の神とてしる神田宮と
かゝる回向の中にあつたはまはつるものにあつたりつる
所は神宮の御一に神田の神とてしる神田宮とて
の神宮とてしる神田の神とてしる神田宮とて
さうして神田の神とてしる神田の神とてしる
神田の神とてしる神田の神とてしる神田の神と
あつたはまはつるものにあつたりつるもの
清氣の只にあつたりつるものにあつたりつるもの

鶏卵とてしる神田の神とてしる神田の神と
のののののののののののののののののののの
ううううううううううううううううううう
あつたはまはつるものにあつたりつるもの
神田の神とてしる神田の神とてしる神田の神と
新なるものにあつたりつるものにあつたりつる
話の神とてしる神田の神とてしる神田の神と
ううううううううううううううううううう
神田の神とてしる神田の神とてしる神田の神と

くしき事らりしころあはれきりてききき
るるに為すに極すの極に敵まのりわたりて
なく暗きまにわたりて終にのち終えられし
今も極まきしころはあはれきりてききき
らに今も極まきりて終にのち終えられし
きりてききききききききききききき
色もて終にのち終えられし
今も極まきりて終にのち終えられし
きりてききききききききききききき

くしき事らりしころあはれきりてききき
るるに為すに極すの極に敵まのりわたりて
なく暗きまにわたりて終にのち終えられし
今も極まきしころはあはれきりてききき
らに今も極まきりて終にのち終えられし
きりてききききききききききききき
色もて終にのち終えられし
今も極まきりて終にのち終えられし
きりてききききききききききききき

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, starting with a large initial letter.

Handwritten text in cursive script, continuing the letter or document, with several lines of text.

Handwritten text in cursive script, continuing the letter or document, with several lines of text.

少寺之人又為其同輩
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為

母之夫人也其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為

人之夫人也其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為

陽台蓮花王 大聖觀自在

唐度厄生界 父母善知識

人之夫人也其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為
之徒其心也甚為

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the open book. The text is dense and fills most of the page. There are some faint markings or bleed-through visible at the top of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

1848
 1849
 1850
 1851
 1852
 1853
 1854
 1855
 1856
 1857
 1858
 1859
 1860
 1861
 1862
 1863
 1864
 1865
 1866
 1867
 1868
 1869
 1870
 1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

1901
 1902
 1903
 1904
 1905
 1906
 1907
 1908
 1909
 1910
 1911
 1912
 1913
 1914
 1915
 1916
 1917
 1918
 1919
 1920
 1921
 1922
 1923
 1924
 1925
 1926
 1927
 1928
 1929
 1930
 1931
 1932
 1933
 1934
 1935
 1936
 1937
 1938
 1939
 1940
 1941
 1942
 1943
 1944
 1945
 1946
 1947
 1948
 1949
 1950

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across several lines. There are some faint markings and a small blue ink blot on the page.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines. There are some faint markings and a small blue ink blot on the page.

Handwritten cursive text at the top of the right page.

Handwritten cursive text in the upper middle of the right page.

Handwritten cursive text in the middle of the right page.

Handwritten cursive text in the lower middle of the right page.

Handwritten cursive text in the lower part of the right page.

Handwritten cursive text in the lower part of the right page.

Handwritten cursive text in the lower part of the right page.

Handwritten cursive text in the lower part of the right page.

Handwritten cursive text in the lower part of the right page.

Handwritten cursive text at the top of the left page.

Handwritten cursive text in the upper middle of the left page.

Handwritten cursive text in the middle of the left page.

Handwritten cursive text in the middle of the left page.

Handwritten cursive text in the lower middle of the left page.

Handwritten cursive text in the lower middle of the left page.

Handwritten cursive text in the lower middle of the left page.

Handwritten cursive text in the lower middle of the left page.

Handwritten cursive text at the bottom of the left page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. The first line is partially obscured by a faint watermark or bleed-through from the reverse side. The text continues across several lines, ending with a signature or name that appears to be "Edwards".

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. The first line is partially obscured by a faint watermark or bleed-through from the reverse side. The text continues across several lines, ending with a signature or name that appears to be "Edwards".

日頃の校の極度の苦勞を以て
此の如く書きたるは

佐門の喜大呂俊の所長を以て

此の如く書きたるは

此の如く書きたるは

此の如く書きたるは

此の如く書きたるは

此の如く書きたるは

此の如く書きたるは



